

## はなだてとうげ 花立峠の由来

おかし、昔、烏山三万石城下の百姓たちは、何年も続く凶作で、食べる物もなく、飢え死にする者もいると言うありさまだったと。その様子を見るに見がねて、小林主水と言う人が、

「飢えている百姓たちに、年貢をまけて下され。粟でもひえでもいいから、お救い下され」

と、訴え出たと。

ところが、城の役人は、そんな話に聞く耳持たず、調べもしねえで、

「百姓をあまやかす、ふらちなやつ」

と、主水を捕えてしまったと。そして、城下はずれの、お仕置き場で、打ち首の系に処せられる事になってしまった。

処刑される日を、人伝えに聞いた百姓たちは、

「俺たちのために思って、訴え出してくれた主水様に申し訳ねえ。助けられるものなら、助けてやりてえな。だども、俺たちには、どうすることも出来ねえなあ」と言っ、次々と村中の人が集まったと。

那珂川を隔てて、遠くに、お仕置き場の見える高い峠から、

「なむあみだぶつ、なむあみだぶつ」と唱えながら主水の冥福を祈ったと。

このことは、親から子へ、子から孫へと伝えられた。毎年、主水の命日には、村中の人々が手に、手に花を持って、この峠に集まり、花を立ててお供えし、供養したんだと。こんなことがあってから、この峠を、花立峠と言うようになったんだと。

おしまい

からすやまの民話 第二集より